

ボランティアガイド結成 リニューアル更新・ホームページ



琵琶湖の前で坂本城について説明する

坂本城を
考える会は、
地図「明智
光秀を歩く」
を作成し、
市内観光地・京阪沿線・雄
琴温泉等に配布しています。
チラシの完成と、それに伴
うボランティアガイドの養
成講座、計三回を終了し、

坂本城

を
考
え
る
会
会
報

ガイド養成講座を受講して
城址公園での
ガイド実施中

発行責任者
天田 省三
大津市下阪本
5丁目10-6

6月19日に大阪歴史懇
談会において、「坂本城の
復興を目指す活動」と称し
て、講演する機会を得まし

講演を終え 食 天田 省三

銀行経済文化センター主催
で、51名の参加者があり
ました。ガイドも5名が参
加し案内しました。また、
各日曜日には城址公園に常
駐してのガイドも実施して
います。

十七名によるボランティア
ガイドを結成しました。
これまで、4件の団体申し
込みを受け、既に2件のガ
イドを実施しました。
第1回は4月20日、市
内の歴史を歩こう会主催で
20数名の参加を得ました。
第2回は5月24日滋賀



た。当初はお断りする気持
ちでしたが、気軽に滋賀県
の歴史でも語って下さいと
のことで、応諾しました。
まず、この運動の動機か
ら今日までの活動の経過を
話し、その後は平安・鎌倉・
室町時代の比叡山延暦寺や
日吉山王神社の政治的・経
済的な力についてを話しま
した。

さらに、徳川幕府の時代
にはいり、やはり比叡山・
日吉大社等を模して江戸の
町が創られたとの歴史を話
しました。

坂本城址公園を美しく

坂本城を考える会では、6月19日に坂本城址
公園の清掃活動を実施し、公園利用者にすつき
り気持ちよくなったと喜ばれています。



講演する天田会長

また、天海僧正説や坂本
竜馬の話もして、大変興味
を持ってもらいました。
地元ではそんな運動が出
来る筈がないとの風評に耐
えながら、賛同する仲間も
二百名以上となり、更に努
力していることに共鳴して
もらいました。

坂本城・比叡山を訪ねて

滋賀大学経済学部教授 二上 季代司

坂本城は、比叡山延暦寺の焼き討ち後、織田信長が明智光秀に命じて作らせたもので、イエズス会の宣教師ルイス・フロイスは、その自署『日本史』のなかで、安土城と並ぶ名城だったと形容している。いまはその跡らしきものが残っているだけである。



比叡山延暦寺東塔にある根本中堂

ある日、その下坂本から車で国道二一七号線を北上、雄琴温泉を通り過ぎたあたりで左折し比叡山ハイウェイに入ってみた。曲がりくねったハイウェイから眼下を見ると、琵琶湖が静かに水をたたえて横たわっている。それをみて、なぜ信長がこの坂本に築城を命じたのか、実感できた。

坂本は琵琶湖の南湖西側にある。西側には比叡山の山脈があり、東側は琵琶湖に面しており、天然の要害を具えた地であった。しかしそれだけではなかった。坂本は比叡山への物資輸送のための港町でもあった。坂本城は、坂本と延暦寺との交通ルートを遮断する形で築

城されていたようであり、延暦寺が再び財力を蓄えて軍事力をもつことがないよう監視していたのであろう。

坂本に限らず、近江の国は、古来より東国から内陸を通って京へ上洛するルートにあたる。今どきの言葉でいえば「地政学上の要所」である。このために琵琶湖周辺には古戦場の跡がいたるところにある。鎌倉幕府から権力を奪わんと後鳥羽上皇が起こした承久の乱（1221年）では、比叡山の僧兵三百騎よりなる京軍が北条時房率いる鎌倉幕府軍と「瀬田の唐橋」で激突している。

その唐橋を、現在の位置に移したのが織田信長であった。そして明智光秀が本能寺の変で織田信長を倒した後、安土を攻めようと唐橋まできたとき、勢田城（現在の瀬田）の山岡景隆は唐橋を焼き払い、明智軍の進軍を妨害し、その動向を逐一、秀吉に通報していた。これが明智軍の命取りとなる。

またその翌年、奥琵琶湖の賤ヶ岳では、秀吉と柴田勝家が戦っている。山岡景隆は、勝家の軍勢に与して敗退、所領を没収されて甲賀への隠遁を命じられたのであった。

と、あれこれツワモノどもが活躍した戦国時代に思いをはせていたら、車はいつのまにか延暦寺根本中堂についていた。

年に一度か二度、比叡山の麗、明智光秀一族の菩提寺としても知られる古刹、西教寺にお邪魔することがあります。光秀がまだ若く貧しい頃に、ある連歌の会の酒肴を調えるに際し、夫に恥をかかせてはと女の命である黒髪を売って金をつくり客をもてなしたという光秀の妻の話に耳にし、芭蕉が「月さびよ 明智が妻

崇高な光秀ファミリー

の「はなしせむ」と詠んでいます。誰と話をしたのか分かりませんが、貧しく寂しい秋の月だが満ち足りた静謐（せいひつ）の内に未来への希望の追求といったものを秘めているのでしょうか。又、坂本城主時代であった光秀は領民に慕われる良き領主であり、今も地元では「坂本城を考える会」を筆頭に光秀顕彰会を始め、

またその翌年、奥琵琶湖の賤ヶ岳では、秀吉と柴田勝家が戦っている。山岡景隆は、勝家の軍勢に与して敗退、所領を没収されて甲賀への隠遁を命じられたのであった。

と、あれこれツワモノどもが活躍した戦国時代に思いをはせていたら、車はいつのまにか延暦寺根本中堂についていた。



東南寺で説明するボランティアガイドの仲間たち

その遺徳を惚ぶ会や行事が
催されておりす。

「本能寺の変」後荒れ狂
う天下の元での細川ガラシャ
もまた苦難の生活を送りな
がらも自己の尊厳と人間愛
を貫き通し、常に世の中の
平和を折り続け、波乱に富
んだ生涯を送った人であり
ました。慶長5年、38歳の

生涯を閉じたガラシャの辞
世の句として“ちりぬべき
時知りてこそ世の中の花も
花なれ人も人なれ”が伝え
られています。花も人も散
りどきを心得てこそ美しい
のだという意味でしょうか。

明智光秀を見据え「坂本城
を興された会」を興された天
田様の理念に光秀を取り巻
く気高い人々の歴史も加え
ると無限に広がる壮大なロ
マンに感無量で武者震いを
覚えます。

現代の子殺し、親殺しが
蠢く世の中にあつて、坂本
城の歴史と光秀ファミリー
の崇高な人としての生きる
道を広く世間に知ってもら
いたいと思うむのでござい
ます。

はたと自分自身を見つめ
てみますと、腹を立てる心、
相手を攻める心、とちすれ
ば己の手柄を吹聴したくな
る心、何時までも失敗を悔
やみ、崩れ
そうになる
心等、日常
茶飯事に出
来湧きます。
これが戦国
の世であら
ば、と思い
ますと日々、
慎ましやか
に謙虚にと
思うのみで
ございます。



明智光秀画像(岸和田市 本徳寺蔵)

光秀は偉大な人物

大津市 梶原大義

明智光秀は、中世以降明治
時代までの各時代にわたつ
て日本の歴史を作ってきた
歴史上最も重要な人物であ
る可能性がある。

明智光秀が足利幕府最後の
将軍である足利義昭に仕え
るとともに、織田信長の家
臣ともなつて、その後の信
長と義昭との対立では信長
側に付き、義昭を滅ぼした
ことは歴史上の事実である。

即ち『織田信長の後ろ盾に
より、足利幕府を滅ぼし戦
国の世を終わらせたのは明
智光秀である』といえる。

そして本能寺の変により、
織田信長を滅ぼし織田政権
を終わらせたのは明智光秀
であることも歴史上の事実
である。即ち『信長の天下
統一を阻止し、それにより
徳川政権を登場させ、三百
年にわたる江戸時代を作つ
たのは明智光秀である』と
いえる。

以下は歴史上認められてお

らず、あくまで巷説である
が、明智光秀は、山崎の戦
いに敗れた後、小栗栖で殺
されずに比叡山に逃れ天海
僧正になったという説、す
なわち小栗栖から比叡山へ
逃れた光秀は、会津生まれ
の僧で、山で修行していた
がすでに死亡していた随風
という名前の僧（これが本
来の天海）と入れ替わった
のではないか、これにより
比叡山に、「慶長二十年
(1615年)二月十七日奉寄
進願主光秀」の石碑
及び「長寿院の第二
世法院であつた権大
僧都是春は俗名を光
秀といつた。長寿院
の第一世光芸によつ
て剃髪を受け、その
後当坊に起居し、鶏
足院を監督、元和八
年(1622年)九月二
五日に逝つた」との
記録が残されたので
はないかという説が

ある(『俊英 明智光秀』
佐宗邦皇)。
またその年齢や伝承(秀満
が坂本城から逃れ、坂本の
盛安寺で僧衣に着替えた後
比叡山に上がったとか、明
智光秀の愛人の桔梗に男子
があり、妙心寺に預けられ
たが、南光坊として比叡山
に上り、智楽院から天海と
名を改めたとかの伝承)な
どから、天海僧正は明智光
満である(『俊英 明智光
秀』永井 寛)とか明智
光秀の愛人の子供である
という説がある(『私信』
山崎隆朗)。
その後、光秀(天海)は



足利義昭画像(東京大学資料編纂所蔵)



坂本竜馬肖像写真、明智家と同じ桔梗の紋

比叡山を下り、駿府で家康と対面、家康は天海を政権の中核に取り込んだ。そして天海は、光秀の妹の子供にあたる斎藤利三の娘であるお福（春日局）を徳川家光の乳母として登用した。また関ヶ原の戦い到家康とともに出陣し、関ヶ原の戦いで東軍に寝返った小早川秀秋の家臣の稲葉正成はお福の夫で、小早川秀秋の裏切りの背後にはお福があり、第二の裏切りとなった脇坂安治、朽木元綱、小川祐忠は明智光秀の直臣（部下）で、この背後には天海僧正||明智光秀があったとする説がある。そしてその後の

大坂冬・夏の陣にも天海は出陣した。即ち『家康の後盾を得て、豊臣政権を滅ぼしたのは、天海僧正としての光秀（又はその子供）である』といえる。次に幕末の志士である坂本竜馬は明智光秀の一族である明智光春⇒坂本太郎五郎からつながる（『私信』坂本世津夫、『俊英 明智光秀』 永井 寛、）との説、また坂本太郎五郎は明智を助けていた坂本の商人であるが、竜馬の紋所が近江明智家と同じ「違い柵に桔梗」であることや伏見寺田屋の女主人のお登勢は大津の出自、竜馬の最後の地

の京都の近江屋主人の井口新之助は近江の出自、また竜馬の妻であるお龍の母は近江八日市の出自であることなどから、竜馬自身、明智一族の子孫であるとの意識があり、坂本竜馬の坂本は近江の坂本に由来するとの説もあり、これが竜馬の明治維新を目指す力の原動力となったのではないかとの説がある（『湖国と文化』 鶴飼修三）。即ち『江戸幕府（徳川政権）を滅ぼし明治維新を導いたのは、明智光秀（その子孫からつながる坂本竜馬）である』といえる。



坂本城入会をして
大津市 河村金孝

私が進んで学んでいる勉強会では、何事も「頼まれる・指名を受ける」は、「はい！喜んで」と答える。嫌です：とか、断るのは肯定的ではなく向上に繋がらないから：と教わってしまいました。元々歴史の事は「解らず・知らず・興味がなく」で済ませて参り、学校時代の成績の悪さが現在の仕事にも家庭生活にも影響受けるでなし：と実に低い認識のもと今日までありました。そして、十年程前に天田さんに呼び止められ、貴方もこの地で「商い」をするならこの地の為に力を貸して欲しい。ついてはこの地にその昔、坂本城があり、そんなお城が再建出来れば、細々とした兼業農家ばかりで何の産業もないこの地域が潤うこと間違いなし。彦根城は格別として、長浜城も地域の皆が力を合わせて再建に漕ぎ着けて、長浜城を中核として多方面で人気を博し観光客の切れ目が無い：等々と熱心な説得を受け応諾したのです。

天田さんの構想はあまりにも大きくて、とてもとても出来っこない！との考えを持ちつつも、夢を見るのは楽しい事。だめ元でいろいろ試して見るのは社会勉強として役立つ事多し、と旺盛な子供の好奇心よろしく参加しました。担い手は会員であり、会員の心を引きとめ、皆が結束し強い力を発揮するには歴史の勉強が不可欠であり、何を聞かれても応えられる知識が必要であります。が悲しいかな、何が誰に繋がらぬであろうであったかへは、大河ドラマ・江を見て少しは解る様になったものの、突込みが入ると解らず：。そしてそんな中、役員で光秀にまつわる坂本城ボランティアガイドを立ち上げ、実施の運びとなりました。前述の通り一度は現場に立たせてもらったものの怖くて怖くて僅か2時間の待ち時間が長く感じられる程緊張を要しました。幸いにも誰も来ずホッとしたと言いう有様です。昔のことわざにもある様に「寺子屋の小僧 習わぬ経を読む」があります、皆様の中に入って教えて頂ければ少しは解るのでは、と細やかな望みは持つております。